

特別活動における学習構想案作成のポイント

熊本の子供を、「学びの主体」として育てるために！

○内容のまとめりごとの目標及び単元(各議題及び各題材の一連の活動)の評価規準の設定

※各「議題」及び各「題材」における事前及び事後の活動を含めた「一連の活動」をここでは「単元」としています。

【参考】「議題」及び「題材」について

学級活動(1)の学習過程において、問題の発見・確認とは、学級や学校での生活をよりよくするため、児童が共通して取り組むべき課題を見いだすことを意味する。その課題の例としては、全員で協力して楽しく豊かな学級や学校生活にするために、取り組みたいこと、つくってみたいこと、解決したいことなどが考えられる。ここで見いだされた課題を基に、児童によって提案されたことについて、教師の適切な指導の下に学級活動(1)で取り上げる内容を「議題」と称す。

学級活動(2)、(3)においては、(2)は現在の生活上の課題、(3)は現在及び将来を見通した生活や学習に関する課題という違いがあるが、問題の発見・確認、解決方法等の話し合い、解決方法の決定、決めたことの実践、振り返りという基本的な学習過程は同じである。なお、教師がこれらの活動で取り上げたいことをあらかじめ年間指導計画に即して設定したものを「題材」と称す。(小学校学習指導要領解説特別活動編p.44-p.45)

例えば、「内容のまとめり」の一つである「学級活動(1)」の場合、目標を次のように設定します。「学級活動の目標」及び学習指導要領解説で例示した「学級活動(1)において育成を目指す資質・能力」を確認し、自校として育成を目指す資質・能力(内容のまとめりごと)を設定し、「目標」とします。

単元(各議題及び各題材の一連の活動)の評価規準は、上記「自校として育成を目指す資質・能力(内容のまとめりごと)」を踏まえ、単元(この場合は議題「2年〇組オリンピックをしよう」の一連の活動)ごとに評価規準を考えます。次のように設定します。

- ◆「知識・技能」は、話し合いや実践活動における意義の理解や基本的な知識・技能の習得として捉える。
- ・目標の文末を「～を理解している」「～を身に付けている」とする。
- ◆「思考・判断・表現」は、話し合いや実践活動における習得した基本的な知識・技能を活用して課題を解決することと捉える。
- ・「表現」には、これまでと同様に言語による表現にとどまらず、行動も含んで捉える。
- ・目標の文末を「～している」とする。
- ◆「主体的に学習に取り組む態度」は、自己のよさや可能性を發揮しながら、主体的に取り組もうとする態度として捉える。
- ・各活動・学校行事において、目標をもって粘り強く話し合いや実践活動に取り組む、自らの活動の調整を行いながら改善しようとする態度を重視することから、「見通しをもったり振り返り」という表現を用いる。
- ・目標の文末を「～しようとしている」とする。

子供たちに求められる資質・能力を確実に育むためには、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善を進めていくことが重要です。そのため、単元を通してどのような子供たちの姿を目指していくのかを明確にイメージし、単元を構想しましょう。

小学校第2学年 特別活動 学習構想案

1 単元構想

単元名	議題「2年〇組オリンピックをしよう」。		
内容のまとめりの目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学級や学校の生活上の諸問題を話し合ったり他者と協働して取り組むことの大切さを理解し、合意形成の手順や活動の方法を身に付けるようにする。 ○ 学級や学校の生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践することができるようにする。 ○ 生活上の諸問題の解決や、協働して実践する活動を通して身に付けたことを生かし、学級や学校における人間関係をよりよく形成し、他者と協働しながら日常生活の向上を図ろうとする態度を養う。 		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①みんなで学級生活をよりよくするために他者と協働して「2年〇組オリンピック」に取り組むことの意義を理解している。 ②話し合いの進め方に沿った意見の発表の仕方や他者の意見の聞き方を理解し、活動の方法を身に付けている。	①学級生活をよりよくするために、問題を発見し、解決方法について話し合いの進め方に沿って合意形成を図り、「2年〇組オリンピック」の準備や活動を仲よく助け合って実践している。	①学級生活をよりよくするために、見通しをもったり振り返りながら、自己の考えをもち、役割を意識して「2年〇組オリンピック」の準備や活動に取り組もうとしている。
単元終了時の児童の姿(題材のゴールの姿・期待される姿)			
自分の役割を考え、学級会の話し合いで決まったことをともに、みんなで協力し、進んで活動に取り組むことができる児童。			
単元を通した課題		本単元で働かせる見方・考え方	
よりよいクラスを目指して、あきらめずに頑張り、みんなと協力し合える「2年〇組オリンピック」に取り組もう。		よりよい学級・学校生活づくりなど、集団や社会に参画し、様々な問題を主体的に解決しようとする。	
指導計画と評価計画(事前の活動及び学級会、事後の活動)			
日時	形態	学習活動	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」
○月○日 昼休み	計画委員会	○ 議題箱を開けて、議題を選定する。 (提案された議題)「なかよしコンテストをしよう」「2年〇組オリンピックをしよう」「あいさつ大会をしよう」。	【態①】(提案カード・観察)
○月○日 帰りの会	学級全員	○ 議題を決定する。	★【態①】(観察) ○ 学級生活をよりよくするために、進んで議題を考えたり、選んだりしようとしている。
○月○日 昼休み	計画委員会	○ 活動計画と学級会ノートを作成する。 (提案理由、めあて、話し合うこと、決まっていること(条件等)の確認)。	★【知②】(活動計画・観察) ○ 計画委員会の役割や、話し合いの進捗の仕方等を理解している。
○月○日 朝活動	学級全員	○ 学級会ノートに自分の考えを記入する。	【思①】(学級会ノート)
○月○日	計画	○ 全員の学級会ノートを読み、意見を整理する。	【知①】(観察)

★「単元を通した課題」のポイント

- 何のために、どのような活動に取り組むのかわかる表現になっていますか
- 本単元の中心となる活動名が入った表現になっていますか
- 子供たちが単元を通して興味・関心をもって深く考えることができる学習課題ですか
- 見方・考え方を働かせて課題解決を図ることができるものですか
- 子供たちと共有できる表現ですか
- 単元のゴールの姿に迫るものですか

★「単元終了時の子供の姿」のポイント

- 目標や評価規準を踏まえ、具体的な学習や生活の場面での子供の姿となっていますか
- 子供たちと共有できる表現になっていますか

・本単元の終末に行う「2年〇組オリンピック」で、学習したことを生かそうとする姿を想定して書き表した例
・子供の姿を思い描く際、目標の三つの柱のうち特に、「学びに向かう力、人間性等」を参考にすることができます。特別活動の第1の目標(総括目標)の(3)「学びに向かう力、人間性等」にあたる部分)には、特別活動において重視する三つの視点がすべて含まれているからです。
※ 第1の目標(3)
自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己表現を図ろうとする態度を養う。

★「本単元で働かせる見方・考え方」のポイント

- 「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の三つの視点を意識した見方・考え方になっていますか
- 「単元を通した課題」を解決するための見方・考え方となっていますか
- 見方・考え方を働かせると深い学びになりますか

・特別活動で育成したい資質・能力の重要な三つの視点「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」は、相互に関わり合っていて明確に区別されるものではありません。
・特別活動の特質に応じた見方・考え方は、「集団や社会の形成者としての見方・考え方」として示されています。
・「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせるということは、子供たちが自己及び集団の生活や社会に目を向け課題を見いだしたり、各教科等の「見方・考え方」を総合的に働かせながら、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に結び付けて解決方法等について話し合ったりすることです。

学級活動(1)は、学級における集団の生活上の課題を解決するために学級会で話し合い、集団として「合意形成」を図って協力して実践する自発的・自治的な活動です。一方、学級活動(2)(3)は、自己の生活上の課題を解決するために、話し合いを生かして、具体的な解決方法などを子供たち一人一人が「意思決定」して実践する活動です。こうした違いを踏まえて、「単元を通した課題」を設定します。

【「単元を通した課題」の例】

- ・「合唱コンクールに向けて学級としての団結力を高め、自主的、自律的に役割を意識して活動に取り組もう。」
- ・「『なりたい3年生』に向けて、職場体験活動での学びをもとに学校生活で今できることを考え、実践していこう。」